

2024 年度 春学期・第1・第2クォーターの授業評価を終えて

文学部長 佐々木 倫朗

2024 年度 春学期・第1・第2クォーターの学期末に実施された学生による授業評価アンケートの集計結果がまとまりました。ここにご報告いたしますとともに授業評価アンケートの実施にあたってご協力いただきました教職員、分析にあたっていただきました関係者各位に御礼申し上げます。

2020 年度の春学期からアンケートの調査方法が web によるものに変更することになって 5 年目を迎えましたが、その結果、今期の回答率は大学全体の平均が 48% という数値となりました。2023 年秋が平均 45% であり、若干回答率があがっていますが、マークシートで行っていた時期の高かった回答率 (90% 超) からみると、今後も回答率を引き上げていく努力が求められていると思います。

アンケートは、15 の質問から構成され、大きくわけて Q1～Q6 は「教員による授業への取り組み」、Q7～Q9 は「学生による取り組みと成果」、Q10～Q12 は「授業に対する満足度」、Q13 は「授業への出席率」、Q14 は「平均学修時間」Q15 は「自由記述」といった内容に区分されます。この中で、「教員による授業への取り組み」は大半の授業において高い評価を得ており、個々の教員がアンケートの結果や分析等を踏まえて、授業を展開している結果であると思われます。また、「授業に対する満足度」に関して、Ⅱ類とⅠ類の授業の数値に差があり、入学を志望した動機と関わる科目・学びであるⅡ類がより高い数字となっています。事情を考えれば致し方ない面もありますが、Ⅰ類の授業において学生の興味・関心を向上させる難しさを示していると思います。

また自由記述については、単なる授業に関する感想にとどまらない建設的な意見を記してくれる学生が毎回みられ、中には教員側では気づかない指摘も多くみられます。それらの意見を授業内で教員に対して伝えてくれると大きな効果が期待できると思いますが、学生が直接教員に意見を伝えることに勇気があることは十分理解できますので、そのような場合は今後も自由記述欄を活用して欲しいと思います。

本報告は、以上のようなことを含めて様々なことを示してくれています。教員の方々には本報告をご覧いただき、よりよい授業運営に向けて、重ねてのご協力を賜りたいと思います。また授業評価アンケートの回答率が、残念ではありますが、50%を下回っております。授業改善の指針としていくためにも、授業評価アンケートが学生と教員の相互作用であることを授業時に伝えながら、回答率を高めていく努力を継続する必要性を感じます。この点につきましても、ご理解とご協力をお願い申し上げます。